

資料—1

第4回委員会以降の取組経過の報告

I. 第4回志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会の開催報告

平成28年2月26日

志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会事務局

I. 第4回志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会の開催報告 ～ 議事概要 ～

- 1 開催日時 : 平成26年12月16日(火) 16:00～17:30
- 2 場所 : さつき会館(島根県飯石郡飯南町八神117-1)
- 3 出席委員 : 山碓 英樹委員長、山下 潔委員、上田 進一委員、藤原 昭男委員、三上 康則委員、
瀧本 孝志委員、舛田 直樹委員

4 議事次第

- 1) 開会
- 2) 挨拶 山碓 英樹委員長(飯南町長)
- 3) 出席者紹介
- 4) 議事
 - (1) 第3回委員会以降の取組経過の報告
 - ① ビジョン策定以降3年間(H24～26)の振り返り
 - ② 第3回委員会以降の取組経過の報告
 - (2) 平成26年度のプロジェクトの実施状況について
 - (3) 志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定について
 - (4) その他
- 5) 閉会

5 配布資料

- ・ 議事次第、出席者名簿、座席表
- ・ 資料-1 第3回委員会以降の取組経過の報告
- ・ 資料-2 平成26年アクションプラン実施内容報告
- ・ 資料-3 志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定
- ・ 参考資料 志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会設立趣意・規約・委員名簿
- ・ 志津見ダム水源地域ビジョン 概要版

6 議事要旨

【委員からの主な意見】

- 1) 第3回委員会以降の取り組み経過の報告について
 - (1) ビジョン策定以降3年間(H24～26)の振り返り

【事務局】

※「志津見ダム水源地域ビジョン」の概要版に従い、ビジョンの位置づけや基本理念、地域の目標像、基本方針、アクションプランの概要、着手時期、推進組織、推進方法等について説明をした後、3年間の振り返りについて以下のように説明した。

<基本方針1について>

- ・ Iの水源地域の景観形成では、フラワーイベント会場や国道184号では定期的に除草を実施し、景観を維持してきた。中期プランである「家畜の放牧による除草等の仕組みづくり」も検討し、企業CSR活動も継続的に実施した。課題は、彩りの森やライトアップなどで集客効果につなげること。
- ・ IIの資源環境の保全活用では、自然体験学習を実施したが、子供たちがいつでも安全に利用できる取り組みが必要。

<基本方針2について>

- ・Ⅲの水源地域の活性化については、うぐいす茶屋における集客、青空市、特産品などの取り組みを進めた。
- ・Ⅳの地域の有する歴史文化の継承では、家庭の味祭りの実施やレシピ集の発行が行われた。

<基本方針3について>

- ・Ⅴの水源地域のPRは中期の取り組みであったが、案内標識の設置などを先行して実施した。
- ・Ⅵの上下流の交流では、ポピー祭、コスモス祭の継続実施、体験イベントの実施など好評を得ている。志々の見どころ紹介では、フォトコンテストの開催を継続しているが、地元ならではのマップづくりは実施できていない。田舎ツーリズムの展開では、地元の方に協力いただける体験イベントの充実に向けた検討が必要。他地区との連携では、尾原ダムとの連携などを行っている。

<3年間を通じた全体的な課題>

- ・イベント以外の交流を促すきっかけづくりが重要。

(2) 第3回委員会以降の取組経過の報告

【事務局】

- ・委員から出た内容については概ね着手した。
- ・ラジコンボートについてはH25年に実施したが、ボートの故障等もあり、専門的な知識を有する愛好者等と一緒に取り組むことが必要である。
- ・自転車、バイクの愛好者の誘致では、サイクリングコースの検討や試乗会などを実施した。
- ・ダム湖の利用の手引きやマップづくりを進めるための最初の一步として、現地調査をこの12月に企画したが、積雪のため延期した。
- ・案内看板については、今年、国道184号の佐田町の付近に設置した。
- ・桜については、春に志々小学校の前の広場に移植し、現在では、志々さくら広場として名称もつけた。
- ・史跡紹介マップについては、今後、わっしょい志々会で取り組みの検討が行われる予定。
- ・同窓会については、現時点では予定がない。

2) 平成26年度のプロジェクトの実施状況について

【委員】

- ・志学の桜の植栽では、広島方面から人を集め、活動をしたいとあるが、どのように人を集めて、どのような活動をするのか教えて欲しい。
- ・1から19番までアクションプランがあり、いろいろ計画されているが、そのものが一般の方に全く知られてない。ダム関係者のみが知っているということではなく、皆でやれるような方向に持っていけないといけない。
- ・地域の住民の方々には、実際にはいろんな行事に参加していただいているが、全てが単体で動いており、この地域ビジョンの全体像は理解してもらえていない。家庭の味祭りなども、ビジョンとは離れた感覚で皆さんが参加しており、ポピー祭は「以前からの祭りであり、ビジョンとは全く関係ない」といった意識になりつつある。したがって、もう少し工夫し、志々地区全体の計画の中で位置づけられているという理解を促進する必要がある。
- ・ライトアップは、一つぐらいは全体を照り出す方法をやらないと、知っている人でないとわからない。

- ・民具の展示の仕方が粗末であり、展示の意図や重要性をまったく感じないので、このこともやはりビジョン全体で捉えることが重要である。
- ・水辺の整備は、水辺で遊ぶ場所として学校の前はコンクリートで整備し、川へ出られるようにしたが、それから先はまだ実施していないために草が生えている。水辺の整備については、当初の計画があるのであれば、最後まで進めた方が良い。

【事務局】

- ・桜の植栽については、このビジョンを策定するとき、志学地区ではメンバーの方、語る会の方からの意向で盛り込まれた経緯がある。今年、志々さくら広場で植栽をする前、志学の方を講師として取り組みについてお聞きした上で、志々小学校の前の桜の植栽を行った。桜の管理の仕方とか植え方についての話しが主となり、広島方面からの集客についてはお聞きできていない。桜の管理や集客など、見習うべきことは見習ってやっていきたい。
- ・水源地域ビジョンの周知については、アクションプランの多くはこの2年間、一部の方のみ関わってやった取り組みが多かった。そこで今年、志々地区全体に声をかけ、地元向け巡視体験を11月24日～26日に実施し、約17名の方が参加して大変好評であったが、募集する段階で「季節的に寒い」ということで参加を見送られた方もいた。そこで次回は新緑の時期に企画したいと思っている。今年地元向け巡視体験を実施した結果、志々地区の方全員を巻き込むような取り組みが足りないといった課題は感じた。
- ・志津見ダムの管理支所ではビジョンの進行に合わせ、施策ごとに「志津見ダム便り」を作成して道の駅や飯南町役場でお配りし、情報を共有するよう心掛けている。また、ホームページやフェイスブック等で問い合わせがあるごとにPRを行うようにしている。
- ・ダム便りについては、今後、地区の回覧文書として配布し、多くの住民の方に取り組み状況を知っていただくような広報を展開したい。
- ・ビジョンの全体像の理解促進については、取組の冠としてビジョンがあり、その下に今のポピー祭、コスモス祭が開催されていることを周知した方がよい。家庭の味祭りについては、「水源地域ビジョンの家庭の味祭り」といったかたちで印刷物も含めて記載するなど、広報の仕方を工夫すれば意識付けはできると思う。
- ・ライトアップや民具の存在感、水辺の整備についてはまさに課題であり、我々は、この3つの柱（方針）を達成するためにそれぞれのメニューを展開しているという認識を常に持ち続けておく必要がある。例えば、民具の展示もこの目標の中では、地域の有する歴史、文化を継承していく目的のために民具を保存、活用するという事になっている。この意識を疎かにするとただ展示するだけになってしまうので、設立時の目標を常に意識しながらやるというのが課題であり、反省でもある。

3) 志津見ダム水源地域ビジョンの今後の予定について

【委員】

- ・この地区は、ほとんど史跡等に対して看板がないので、手づくりの見どころ案内板をぜひ進めて欲しい。
- ・志津見の明剣神社には巨木があるが、そこに行ける状態ではないので、大きなカシノキやイチョウがあることを看板で案内した方がよい。
- ・野外コンサートについては、公園の木が小さく、夏は暑いところなので難しいかもしれないが、季節

の良い時期にやればできるのではないか。ビジョンについては、マップがあってもなかなか皆が理解しているわけでもないので、何か大きなことをやっていかないとだめ。

- ・「フォトコンテストの入賞者の作品はここから撮りました」といった表示があると、素人でもいい写真が撮れるので、写真撮影スポット、眺望スポットといった標識があると良い。
- ・ダム公園には「顔出し写真撮影用看板」を設置し、そこに顔を入れて写真を撮れば背景のダムが上手く写るようにすればよい。
- ・ダムの管理事務所のところからダム湖内が見えないので、もう少し前まで行けるようにできないか。堰堤の方は伐採して見えるようになっているが、もう少し湖内が見えるところを整備して欲しい。恐らく、湖内が見えないことで「ダムがある」ことに気が付かない人も多い。
- ・自然に優しいエコ活動として 27 年度の事業内容に小水力発電のことが出てくるが、町で可能性調査を行い、具体的な計画もあったが、維持管理の面で非常にリスクが多く、断念した。したがって、町としては小水力発電をこれ以上検討しないので、記載しない方がよい。
- ・ダム湖の岸まで行くのが大変難しいので、ボートがあるところの湾の周辺など、湖内が見えるような所を歩いて回れるような遊歩道があればよい。水辺で遊ぶことは難しいが、「見て歩く」ということで検討した方がよい。
- ・地元向けの巡視体験では、昔、我々はこの地区で生活していたが、実際に湖上から見ると地形がわからない。そこで、以前の谷の名称や地名、施設名といった情報をシールで貼りつけたマップを見ながら巡回することができれば、地元の人には意味がある。
- ・ウォーキングの看板が設置されているが、隅の方であって分かりにくいので、見える場所に設置した方がよい。
- ・いろんな意見があったが、「もっと多くの人にビジョンについてよく知っていただいた方がいい」、「それぞれのいい取り組みが連携し、ビジョンの全体像がわかるように」という主旨であったと思う。このような「伝えていく」という点、またそれぞれの取り組みを「つなげていく」という点において、国としてもしっかりと地元の方々と協力してやっていきたい。
- ・林道森脇線がなぜ通れないのか、是非、車も含めて通れるようにしてほしい。ごみの問題も昔はあったと思うが、もし不法投棄があればあったときの処置の方法で考えればよい。
- ・林道森脇線については、町としては基本的には今はもう開放してあることであれば、ゴミ問題の啓発も含めて「きれいな道路として使いましょう」ということを自治区長さん通じてしっかり周知した方がよい。
- ・以上のような委員からの意見と、以下のような事務局の見解も含め、27 年度の実施内容については了承をいただいた。

【事務局】

- ・地区の施設等の案内看板については、大きな木を切った材料があるので、それを活用したらどうかといった意見をいただいたことがある。地域の方々と一緒に史跡に行き、そこに自分たちで看板を設置するというようなやり方もある。このような取組方法等については、まだ志々を元気にする会の方でも具体的な提案ない。来年、事務局としては、案内したい対象や案内看板を設置したい場所を現地調査し、議論を進めていきたい。
- ・フォトコンテストの撮影スポットについては現在、志津見ダム下流の境橋を越えたところの道路が広

くなっており、そこから志津見ダムが真正面に見えるような場所になっている。その広場は県で維持管理しているが、のり面の方の木が大きくなりつつあるので、今後は連携することで伐木をお願いし、維持管理や広報をしていきたい。

- ・公園については、今年、島根県より消防ヘリの訓練で上流の公園を利用させて欲しいという要請があり、周辺地域との問題がなければダム湖の利用は可能と伝えしたところ、11月と12月に訓練を実施した。そこで、個人的な意見であるが、「消防ヘリが訓練をしている場所です」といった安全活動等をPRするのも広報としては効果的ではないか。このように公園としての利用だけではなく、いろいろ多目的な利用、取り組みが全体となって、一体となって広がっていくように工夫していくことが必要である。
- ・小水力発電については、それ以外にも竹の粉碎チップの利用や古紙の再利用とかもある。中期の中では小水力は別としても、それ以外は検討していきたい。
- ・ダム湖周辺の遊歩道等については、先日のような巡視体験を再度行い、地域の方々と一緒に魅力を発見しながら、具体的に「ここの風景がよい」、あるいは「山菜が採れるので行きたい」といった意向を踏まえ、湖内に入れるような場所の整備等を今後、検討していきたい。
- ・志々を元気にする会でも、ダムについて知らないところが多いということで12月5日に現地調査を計画したが、大雪で中止になった。まず、推進組織のメンバーの方に、普段は入れないところを知ってもらい、その上で活用の方向性を検討していきたい。
- ・遊歩道関連では、貯水池内に進入できる道路として、工事の際の管理道の活用の可能性を再度調査したいと考えている。遊歩道だけではなく、釣りができるスポットも探していきたい。
- ・湖底の昔の地名等は、ダムの管理支所にある管理図にはもともとの地形は残っており、家屋の跡までは分からないが、恐らくこの辺かなというプロットは可能であり、それを提供させていただきたい。
- ・ウォーキング・マップの看板の設置場所については、場所が悪いといった認識はあるので、再度、検討する。
- ・「つなげる」という取組では、飯南町は県の高速道路推進課や国の松江国道事務所と連携し、「国道54号サイクリングロード」を展開している。愛好家から、広域的に走るには三瓶山周辺は車の交通量も少なく、道路も比較的広いということでサイクリングコースとしては非常に適しているといった意見があり、飯南町内のコースをモデルコース化して今後検証する。
- ・11月の1～3日にはサイクリングをテーマとしたモニターツアーも企画し、自転車のみではなくいろんな体験や観光も行い、都会では入手困難ということで志津見にて玄米を大量に購入するなど、志々地区をコースとして組み入れることにメリットを感じた。
- ・貯水池は通常、イベント以外では使用しないが、スポーツ用自転車の試乗会を実施した結果、自動車の危険がないコースとしてサイクリストにとっては非常に良いという意見をいただいたので、今後は子供の安全教室というのも企画できると思う。
- ・志々を元気にする会の現地調査は、湖面だけではなくて、ふだん水が貯まらない貯水池も含めて利用計画を考えていこうという動きもあり、自転車とこの志津見ダム周辺地域というのは非常に相性が良いと考えている。
- ・林道森脇線については、町の建設課は「以前、通れるようにゲートを開放したが、誰かが勝手にゲートを閉めている」と言っている。元気にする会でも議論したが、ゲートを空けたらごみの不法投棄があるのでないかと心配される方もいた。しかし、ウォーキング・マップとしてコースに入っている

以上、しっかりとしたルールをつくって利用した方が良いが、歩行者のみか車も入れるかなどについては、いろんな意見を踏まえて検討したい。

- ・林道森脇線は企業CSRのときも道路の側溝の整備をしており、草刈りも含めてやっている。実際に走ることもでき、落石も余りないので、来年も含めてもう少し除草をやれば開放しても問題はなく、町の建設課と管理支所としては一応開放ということで結論は出ている。

(5) その他

【委員】

- ・道路のアクセスの関係で、八神の連担地から来島へ向かって、大字獅子の方へ向かったところはまだ道路整備ができていないが、最近は大型の車が非常によく通行しており、事故が起きてからでは遅いので道路整備が必要ではないか。
- ・冬期間になると山からの立ち木の上に雪が多く積もるが、これは誰が対処すべきなのか。頓原まで続く間の長谷までの間が、非常に危ない箇所が多い。
- ・県道 326 号の大字志々地内では斜面が急なので、その道路整備もあわせてお願いをしたい。頓原から長谷までは道路改良もされているが、この区間は来島ダムのところへ農道がついており、それを利用した出雲－広島便といったトラックも定期便もあり、大型車が多い。ここの整備ができれば、志津見ダムへの集客もよくなると思う。
- ・冬季の流木の立ち木の対応は、基本的には地権者の方が伐採していただくことになっている。このような要望があったときは、その都度、県が地権者のところに出向いて説明はしている。地権者の方が不明というようなときは、県で対応している。
- ・基本的にはこのようなことは経費もかかることであるが、危険なことでもあるので、町にでも御相談いただき、町の建設課を通じても対応していきたい。
- ・ダムの堰堤の方が閉門してあり見学等もできないが、ポピー・コスモス祭り等々ときには管理者の方が立ち会い、堰堤からの景色を見られるという日があってもいいのではないか。
- ・堰堤の開放については、PR不足というのは否めないが、「いつでも見ることができます」ではなく、「条件を整えば見ることができます」でもなく、「年間 12 日しか見ることができません」といったことで希少価値を高めるような展開もある。
- ・今度、県が学校の下から桜を植えたところについて擁壁やるとのことであるが、それから前、道路から、側溝から 1m ぐらい空いているが、舗装してもらうことはできないか。そうすれば除草しなくてもよくなり、きれいになる。
- ・その場所は民地だと思うが、民地であれば対応できない。後日、現場を確認する。
- ・斐伊川 3 点セットということで進めているが、その進捗は、まさに大橋川の改修が最後の大事業として残っている。平成 23 年から大橋川の工事着手をしており、今現在、4カ所で工事中。その内、県立美術館の目の前の天神川の水門はほぼ完成し、年明けには本完成という運びになっている。今後、引き続き、今年度、来年度にかけて下流側の工事が進んでいく。

【事務局】

- ・堰堤の方の門の解放については、毎日は無理であるがポピー・コスモス祭りのときにはダムの見学会と、下流の発電所の見学会を同時に開催し、巡視体験も実施しているが、PR不足については認識している。

- ・祭りの時以外にも、事前の予約があれば団体様にダムの御案内はさせていただいている。ただ、職員がいるときのみなので平日が基本になるが、事前予約していただいた団体様であれば、土日等でも柔軟に対応している。
- ・堰堤については、イベント時とか団体を対象に開放しているということであるが、例えば月の第何日曜日には開放するとか、定期的な開放日を決めて、それを周知していくようなことも検討していきたい。
- ・追加資料として配布した「志津見ダム周辺地域の治水啓発活動」について説明し、志々地区内の自治会の方を対象にした「大橋川の改修状況の視察」を2月に計画するとともに、3月以降については志津見ダムの同盟会の方の視察もあわせて企画していきたい。

以 上

志津見ダム水源地域ビジョン推進委員会 第4回委員会が出された意見に対する対応状況

委員からの意見	委員会での回答	平成27年の実施内容
<ul style="list-style-type: none"> 志学の桜の植栽では、広島方面から人を集め、活動をしたいとあるが、どのように人を集めて、どのような活動をするのか教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年、志々さくら広場で植栽をする前、志学の方を講師として取り組みについてお聞きした上で、志々小学校の前の桜の植栽を行った。 桜の管理、植え方の話しが主となり、広島方面からの集客についてはお聞きできていない。今後、桜の管理や集客など、見習うべきことは見習ってやっていきたい。 	<p>桜の時期にゆっくり花を愛でることが出来るように、また、夏に木陰で休めるようにと、わっしょい志々会のメンバーで手作りベンチを7台作成した。今春より設置予定。 (シーズンオフは撤去)</p>
<ul style="list-style-type: none"> アクションプランが一般の方に全く知られてないし、皆でやれるような方向に持っていけない。 地域住民の方々は、実際にはいろんな行事に参加していただいているが、全てが単体で動いており、ビジョンの全体像は理解してもらえていない。 家庭の味祭りなども、ビジョンとは離れた感覚で皆さんが参加しており、ポピー祭は「以前からの祭りであり、ビジョンとは全く関係ない」といった意識になりつつある。 したがって、もう少し工夫し、志々地区全体の計画の中で位置づけされているという理解を促進する必要がある。 ビジョンは、冊子があってもなかなか皆が理解しているわけでもないで、何か大きなことをやっていかないとだめ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年、地元の理解促進を目的とし、志々地区全体に声をかけ、地元向け巡視体験を実施し結果、地区の全員を巻き込むような取り組みが足りないといった課題は感じた。 志津見ダムの管理支所では施策ごとに「志津見ダム便り」を作成して道の駅や飯南町役場でお配りし、情報を共有するよう心掛けている。今後、地区の回覧文書としてダム便りを配布するような広報も展開したい。 ホームページやフェイスブック等でPRを行っている。 ビジョンの全体像の理解促進は、取組の上位にビジョンがあり、その下にポピー祭、コスモス祭が開催されていることを周知した方がよい。 家庭の味祭りは、「水源地域ビジョンの家庭の味祭り」など、印刷物も含めて記載するなど、広報の仕方を工夫すれば意識付けはできると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> フェイスブックを活用した情報発信や情報共有の実施 ポピー／コスモス祭ではブースにてパネル展示を実施。 家庭の味祭りにて「ダムカレー」講演会を実施。また、連動企画である家庭の味コンテストでのお題を「ダムカレー」として実施。 「親子であそぼう」や「親子で稲刈り」など、交流イベントとの祭にはダム見学も実施。 フォトコンテストの写真や町、地元所有の写真を活用することで地域の四季の魅力や表情を伝える卓上カレンダーを作成し、全戸配布を実施することで、ビジョンの理解促進やダムの意識付を目指した。
<ul style="list-style-type: none"> ライトアップは、全体を照り出す方法をやらないと、知っている人でないとわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ライトアップや民具の存在感、水辺の整備はまさに課題であり、この3つの柱（方針）を達成するために各メニューを展開しているという認識を常に持ち続けておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 紅葉ライトアップでは、全体を照らし出すような工夫を施し、魅了向上に貢献した。 ライトアップ前々日に企業CSRにて環境美化活動を行い、前日には紅葉祭りを開催するなど、各取組を連携させることで参加率の向上や理解促進を目指した。
<ul style="list-style-type: none"> 民具の展示の仕方が粗末であり、展示の意図や重要性をまったく感じないので、このこともやはりビジョン全体で捉えることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、民具の展示もこの目標の中では地域の有する歴史、文化を継承していく目的のために民具を保存、活用するという事になっている。この意識を疎かにするとただ展示するだけになってしまうので、設立時の目標を常に意識しながらやるというのが課題であり、反省でもある。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・この地区は、ほとんど史跡等に対して看板がないので、手づくりの見どころ案内板をぜひ進めて欲しい。 ・志津見の明剣神社には巨木があるが、そこに行ける状態ではないので、大きなカシノキやイチョウがあることを看板で案内した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内看板は、大きな木を切った材料があるので、それを活用したらといった意見をいただいたことがある。 ・地域の方々と一緒に史跡に行き、自分たちで看板を設置するというようなやり方もある。 ・取組方法等は、まだ志々を元気にする会でも具体的な提案はない。 ・来年、事務局としては、案内したい対象や案内看板を設置したい場所を現地調査し、議論を進めていきたい。 	<p>わっしょい志々会において、志々地区の遺跡、神社・仏閣、自然の景勝を紹介する手作り看板の設置について、検討が行われている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「フォトコンテストの入賞者の作品はここから撮りました」といった表示があると、素人でもいい写真が撮れるので、写真撮影スポット、眺望スポットといった標識があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・志津見ダム下流の境橋を越えたところの道路が広がっており、そこから志津見ダムが真正面に見えるような場所になっている。その広場は県で維持管理しているが、のり面の木が大きいので、今後は連携することで伐木をお願いし、維持管理や広報をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・眺望スポット等については、地区の広報ツールでの活用を検討。
<ul style="list-style-type: none"> ・ダムの公園には「顔出し写真撮影用看板」を設置し、顔を入れて写真を撮れば背景のダムが上手く写るようにすればよい。 ・野外コンサートは、公園の木が小さく、夏は暑いところなので難しいかもしれないが、季節の良い時期にやればできるのではないか。 ・水辺の整備は、水辺で遊ぶ場所として学校の前はコンクリートで整備し、川へ出られるようにしたが、それから先はまだ実施していないために草が生えている。水辺の整備については、当初の計画があるのであれば、最後まで進めた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年、島根県より消防ヘリの訓練で上流の公園を利用したいという要請があり、訓練を実施した。個人的な意見であるが、「消防ヘリが訓練をしている場所です」といった安全活動等をPRするのも広報としては効果的ではないか。 ・公園としての利用だけではなく、いろいろ多目的な利用、取組みが全体となって、一体となって広がっていくように工夫していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の整備については、コスモス祭にて実施したラジコンボートの操縦体験にて、具体的な周辺整備のアイデアをいただいた。今後は、その実現の可能性について検討。 ・志津見大橋下流に平地がありそこをビジョンで活用できないか検討を実施。

<p>・ダムの管理事務所からダム湖内が見えないので、もう少し前まで行けるようにできないか。堰堤の方は伐採して見えるようになっているが、もう少し湖内が見えるところを整備して欲しい。恐らく、湖内が見えないことで「ダムがある」ことに気が付かない人も多い。</p>	<p>ダム湖周辺の遊歩道等は、先日のような巡視体験を再度行い、地域の方々と一緒に魅力を発見しながら、具体的に「この風景がよい」、「山菜が採れるので行きたい」等の意向を踏まえ、湖内に入れるような場所の整備等を今後、検討していきたい。</p> <p>・志々を元気にする会でも、現地調査を計画したが、大雪で中止になった。推進組織のメンバーの方に、普段は入れないところを知ってもらい、活用の方向性を検討していきたい。</p> <p>・湖面だけではなくて、ふだん水が貯まらない貯水池も含めて利用計画を考えていこうという動きもあり、自転車とこの志津見ダム周辺地域というのは非常に相性が良いと考えている。</p> <p>・遊歩道関連では、貯水池内に進入できる道路として、工事の際の管理道の活用の可能性を再度調査したいと考えている。遊歩道だけではなく、釣りができるスポットも探していきたい。</p>	<p>・ダム管理支所前の広場は柵付近の除草を実施し、ダム本体が見えやすいようにしている。また、車椅子利用者でも柵付近まで近づいてダムを見てもらえるように舗装を行うよう考えており設計を行った。</p>
<p>・ダム湖の岸まで行くのが大変難しいので、ボートがあるところの湾の周辺など、湖内が見えるような所を歩いて回れるような遊歩道があればよい。水辺で遊ぶことは難しいが、「見て歩く」ということで検討した方がよい。</p>	<p>・湖面だけではなくて、ふだん水が貯まらない貯水池も含めて利用計画を考えていこうという動きもあり、自転車とこの志津見ダム周辺地域というのは非常に相性が良いと考えている。</p> <p>・遊歩道関連では、貯水池内に進入できる道路として、工事の際の管理道の活用の可能性を再度調査したいと考えている。遊歩道だけではなく、釣りができるスポットも探していきたい。</p>	
<p>・地元向けの巡視体験では、昔、我々はこの地区で生活していたが、実際に湖上から見ると地形がわからない。そこで、以前の谷の名称や地名、施設名といった情報をシールで貼りつけたマップを見ながら巡回することができれば、地元の人には意味がある。</p>	<p>・湖底の昔の地名等は、ダムの管理支所にある管理図にはもとの地形は残っており、家屋の跡までは分からないが、この辺かなというプロットは可能であり、それを提供させていただきたい。</p>	<p>・ダムの管理図をもとに現地調査を企画したが天候不順にて中止した経緯がある。今後、再度、現地調査を計画したい。</p>
<p>・自然に優しいエコ活動として27年度の事業内容に小水力発電のことが出てくるが、町は維持管理の面で非常にリスクが多く、断念した。したがって、町としては小水力発電をこれ以上検討しないので、記載しない方がよい。</p>	<p>・小水力発電については、竹の粉砕チップの利用や古紙の再利用とかもある。中期の中では小水力は別としても、それ以外は検討していきたい。</p>	<p>・ビジョンの中期版の冊子では、小水力発電の記載は削除した。</p>
<p>・ウォーキングの看板が設置されているが、隅の方であって分かりにくいので、見える場所に設置した方がよい。</p>	<p>・ウォーキング・マップの看板の設置場所については、場所が悪いといった認識はあるので、再度、検討する。</p>	<p>企業CSR活動に参加した子供たちとウォーキングを兼ねたゴミ拾いを実施し美化保全に努めた。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・林道森脇線がなぜ通れないのか、是非、車も含めて通れるようにしてほしい。 ・ごみの投棄の問題も昔はあったと思うが、もし不法投棄があればあったときの処置の方法で考えればいい。 ・町としては、基本的には今はもう開放してあることであれば、ゴミ問題の啓発も含めて「きれいな道路として使いましょう」ということを自治区長さん通じてしっかり周知した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町建設課は「以前、ゲートを開放したが、誰かが勝手にゲートを閉めた」と言っている。 ・元気になる会でも議論したが、ごみの不法投棄があるのではないかと心配される方もいた。 ・ウォーキングコースに入っている以上、ルールを決めて利用した方が良いが、歩行者のみか車も入れるかなどは、いろんな意見を踏まえて検討したい。 ・林道森脇線は企業CSRのときも道路の側溝の整備をしており、草刈りも含めてやっている。 ・実際に走ることもでき、落石も余りないので、来年も含めてもう少し除草をやれば開放しても問題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は解放しており通行が可能。 ・本年度も企業CSRで林道森脇線の道路の側溝の清掃をしており、草刈りも含めてやっている。 ・実際にウォーキングをされている方の姿も見受けられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・道路のアクセスの関係で、八神の連担地から来島へ向かって、大字獅子の方へ向かったところはまだ道路整備ができていないが、最近は大型車が非常によく通行しており、事故が起きてからでは遅いので道路整備が必要ではないか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・県道頓原八神線 長谷工区として、S字急カーブ区間の緩和・改良工事に今年度から着手している。 (全体工事延長L=400m) ※H30年度完成予定
<ul style="list-style-type: none"> ・ダムの上堰の方が閉門してあり見学等もできないが、ポピー／コスモス祭等のときには管理者の方が立ち会い、堰堤からの景色を見られるという日があってもいいのではないか。 ・堰堤の開放についてはPR不足が否めないが、「いつでも見ることができます」ではなく、「条件整えば見ることができます」でもなく、「年間12日しか見ることができません」といったことで希少価値を高めるような展開もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堰堤の門の解放は、毎日は無理であるがポピー／コスモス祭のときにはダムの見学会と、下流の発電所の見学会を同時に開催し、巡視体験も実施しているが、PR不足は認識している。 ・事前予約で団体様にダムの御案内はさせていただいている。ただ、職員がいるときのみなので平日が基本になるが、事前予約済みの団体様であれば、土日等でも柔軟に対応している。 ・例えば、月の第何日曜日には開放するとか、定期的な開放日を決めて、それを周知していくようなことも検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PRの方法として今年度からポピー／コスモス祭でデジタルサイネージを活用したダム見学や巡視体験の情報提供を行った。 ・土日のダム見学依頼もあり柔軟に対応をした。